安城ロータリークラブ

2011-2012年度 RI2760地区
Intercity Meeting 記録書

安城RC事務局
〒 446-0032 安城市御幸本町15-1碧海信用金庫本店3F TEL 0566-75-8866 FAX 0566-74-5678
E-mail anjo-rc19580206@katch.ne.jp URL http://www.anjo-rc.org/

RI 2760地区 2011−2012年度 西三河分区

Intercity Meeting

記 録 書

友 達 を つ く ろ う

Kariya Nishio Hekinan Ishiki

Takahama Chiryu

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

Nishio KIRARA Mikawa Anjo Anjo

国際ロータリー第２７６０地区 西三河分区

2012年2月19日(日)

会場/ホテルグランドティアラ安城
安城市三河安城南町1-8-11 TEL (0566)72-1122
ホストクラブ/安城RC

2011-2012
Intercity Meeting

目 次
CONTENTS

第一部　式典
会長挨拶 …… 1
来賓挨拶 …… 2
ガバナー挨拶 …… 3
ガバナー補佐挨拶 …… 4
プログラム …… 5

第二部　フォーラム
IM 実行委員長挨拶 …… 5
パストガバナー講演 …… 7
フォーラム報告 …… 8

第三部　懇親会
懇親会風景 …… 21

IM 組織図実行委員会 …… 22
登録者名簿 …… 23
収支決算書 …… 23

主催者挨拶

ホストクラブ会長　沓名　俊裕

本年は安城ロータリークラブからガバナー補佐を輩出しております。IM の支援目標は安城 RC 一丸となって応援、協力ができる体制づくりが必要と考えました。そこで本年度事業の 1 番にガバナー補佐支援を掲げました。組織は活動しやすいクラブ事業と同じにしました。それによりガバナー補佐事業をやる上でクラブ内の統一が出来たように感じました。しかし、西三河分区 9 クラブの皆様のご協力がなくては出来ない事業でしたが、当日は 500 名の登録を頂き会場が満席となりました。活気溢れる、充実した IM が出来たことは、ホストクラブとして感無量でありました。ありがとうございました。

細井ガバナー補佐のテーマ「友達をつくろう」の基に石原昭 IM 実行委員長は式典、フォーラム、懇親会を上手くまとめました。パストガバナーの盛田和昭様にお願いをして「ポールハリスは友達が欲しかった」のテーマで講演をして頂きました。弁護士の仕事を始めたのに友達がなく、友達をつくるためにロータリークラブをつくったようでした。ロータリークラブの原点は親睦からと言われる意味がよく理解出来ました。また、テーブルごとのディスカッションを終え、9 クラブから代表 1 名にまとまりのある良い発表をしていただきロータリークラブの良さを再確認しました。

西三河分区 9 クラブの皆様には多大なご協力、ご支援に感謝すると共に、今後益々のご活躍をご祈念申し上げ御礼とさせて頂きます。

来賓挨拶

安城市長　神谷　　学

どうも皆さんこんにちは、安城市長の神谷学でございます。この度、西三河分区インターシティミーティングが、ここ安城市において盛大に開催されました事、心よりお喜び申し上げます。また、本市にご来訪いただきました事を、心よりご歓迎申し上げます。そして、ホストとして開催の準備にあたられました安城ロータリークラブの皆さま方のご尽力に対して、また常日頃の市政に対するご理解ご協力に対しましても、この場をお借りして厚くお礼申しあげます。ありがとうございました。

さて、昨年３月の東日本大震災から早１年が経過しようとしております。東日本の被災地に対しましては、この西三河地域の各市それぞれが様々な支援を続けておりますが、地方都市にできることには限界があると感じられる事も多々ございます。この西三河地域の各ロータリークラブの皆さまからの被災地へのご奉仕やご支援を大変ありがたく受け止めております。この場をお借りしまして、皆さまのご厚意に心よりお礼申し上げます。

また、せっかくの機会でありますので、安城のPRをさせていただきます。安城市は本年５月５日に市政施行60周年という大きな節目を迎えます。春以降さまざまな記念の周年事業が開催されますので、皆さまも各種の催し物にご参加いただき、安城市の還暦をお祝いいただければありがたく存じます。また、来年７月30日は安城の街でその短い青春時代を過ごされました童話作家・新美南吉の生誕100年となります。よって、生誕地の半田市とともに新美南吉の生誕100年をお祝い致しまして、彼の童話の世界をテーマとして本市の中心市街地の再整備につなげていきたいと考えております。こうした催しへもご賛同とご協力を賜りますように宜しくお願いを致します。

最後になりますが、本大会の御盛会とお集まりの皆さま方のご健康を心よりご祈念を申しあげまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

開催にあたってのご挨拶

第 2760 地区ガバナー　松前　憲典

2760 地区のロータリアンの皆様におかれましては、つつがなく新年をお迎えになられ、お慶び申し上げます。昨年はガバナー公式訪問と地区大会の開催にあたり、多大なるご理解とご支援を賜りました。82 クラブ訪問の節は温かいご歓迎をいただき、ガバナー終生忘れることが出来ません。心よりお礼を申し上げます。

さて、2760 地区には 8 分区あります。各分区が IM を開催していただき、研修と親睦でロータリーの活性化を進めて下さることに敬意を表します。また、1 月はロータリー理解推進月間でありました。ロータリーを楽しむには、ロータリーを知ることが必要であります。「親睦」と「奉仕」のバランスのとれた活動は、ロータリーを理解することから始まると言われています。

さて、ロータリーは奉仕の精神から成り立っております。廣畑富雄 RI 第 2700 地区パストガバナーは「ロータリーの心」を ESS で表現されております。E は Enjoy(楽しむ) 毎週の例会で地域の職業を代表する会員同士が、信頼感を高めながら楽しむ。一つ目の S は Study(学ぶ) ロータリーから人生哲学、職業倫理を学び、多くの会員から学び、自己研鑽し、人間性を高める。二つ目の S は Service(奉仕する) 思いやりの心で、人のお役に立つ行動を、というロータリーの奉仕をごく自然に、自分の生活の中に活かし、世のため、人のために尽くす。これがロータリーの真の姿であると言われております。ESS(Enjoy、Study、Service) とは私たちロータリー会員が互いに磨き合い、楽しみ、学び、奉仕することが人間の真の満足を充たす道になると思います。

片山パストガバナーは、ロータリーの目的は奉仕であり、奉仕は親睦から生まれ、親睦は出席から始まると述べられております。

◎ロータリーとは奉仕と親睦を大切に、人道的奉仕を行い、あらゆる職業において、高度の道徳的水準を守ることを奨励し、かつ世界における親睦と平和の確立に寄与する職務に携わる指導者が世界的に結び合った団体であります。

◎ロータリーの目的と 2 本柱を高く掲げる。
・奉仕と親睦を大切に
・ロータリアン自身の幅広い人間形成、人格陶冶、自己研鑽。

◎ロータリーでは奉仕の理想を掲げております。

◎ロータリーの哲学とは「ロータリーの奉仕の理念」であります。

◎奉仕の理想とは、他人のことを思いやり、他人に役立とうとする思いやりの気持ちを実行に移す。

◎ 2 つの奉仕の理念
①奉仕哲学　Service above self
②実践倫理　最もよく奉仕する者、最も多く報いられる。

ロータリーの友 2007 年 1 月号､RI 会長ウィリアム・ボイド氏は「ロータリーの根幹」と題して、次のように述べています。

・ロータリーは友情と親睦、国際理解と協力、職業倫理と地域社会における指導力など、多くのものが成り立っている。

【ロータリーの根幹】

①ロータリーとは、奉仕に従事し、超我の奉仕を実践することであります。

②奉仕の五大部門（クラブ・職業・社会・国際・新世代）を中心に奉仕のバランスとロータリーの目的を達成することであります。

③ロータリー財団を強化し、会員増強に努める。

【6 名の著名なロータリアン】

ポール・ハリス
ドナルド・カーター
ベンジャミン・フランク・コリンズ
アーサー・フレデリック・シェルドン
ハーバート・テーラー
アーチ C・クランフ

皆様と共にロータリーを勉強していきたいと思っております。本年もどうぞ宜しくお願い致します。奉仕の実践、晩年は社会に貢献することで、人生に一輪の花を咲かせようではありませんか。

ガバナー補佐挨拶

安城 RC　細井　英治

2012 年 2 月 19 日（日）ホテルグランドティアラ安城にて、RI2760 地区西三河分区、9 クラブによるインターシティー・ミーティングを開催しましたところ 500 名の登録をいただき盛会に開催することができました。

本年度の IM のテーマは「友達をつくろう」としました。分区内の会員の皆様が一堂に会し、親睦と友情を深め、ロータリーを一層理解することを主眼とし、松前ガバナーの方針である「会員増強とクラブの活性化」に沿って実のある大会になるよう心がけました。

ロータリーも時代とともに社会構造も変化し、人や社会に対する意識が変わってきている中で、この度は、盛田和昭パストガバナー（名古屋 RC）をお迎えして「ポールハリスは友達が欲しかった」と題してロータリーの原点を学びたいと考えました。盛田和昭パストガバナーには、ロータリークラブがどのようにして生まれたか？どのようにして発展していったか？ロータリークラブはどのようにあるべきか？などなど、わかりやすく講演いただきました。そして講演後「ロータリーの友達づくり」と題してフォーラムを開催しディスカッションとして、9 クラブからそれぞれのテーブルに別れていただき 9 つのテーマに沿ってディスカッションしていただき、クラブを代表しての 9 クラブより発表をお願いいたしました。その際には、各クラブの皆様には、大変なご協力をいただき深く感謝申し上げます。初めての試みで戸惑いもありましたが、皆様のご理解により最後まで有意義な会議となりました。フォーラム終了後、盛田和昭パストガバナーより講評をいただき、その中で私たちはいつも「IM」と読んでいますが本来は、「IDM」が正しいとの解説をいただきました。「I」はインターシティー、「D」はディスカッション、「M」はミーティングであります。今回私たちが行った 9 クラブでのディスカッション方式はそれに沿ったものと高い評価をいただき、充実した会議となったと思います。西三河分区の各クラブの今後のロータリー活動において、少しでもお役に立てれば幸いです。そして懇親会を通じて友情の輪が広まったことと想い深く感謝申し上げます。

プログラム

【式典】

13：50　オープニング
総合司会　小野内宣行
田村真喜子

14：00　開会の言葉
ＩＭ式典委員長　竹内　通裕
点鐘
ガバナー補佐　細井　英治
国家「君が代」斉唱
ソングリーダー　石川　博
ロータリーソング
「奉仕の理想」斉唱

14：10　主催者　挨拶　（歓迎の言葉）
ホストクラブ会長　沓名　俊裕

14：15　来賓並びに特別出席者の紹介
分区幹事　寺田　孝司
出席クラブ紹介

14：20　来賓　挨拶
安城市長　神谷　学 様

14：25　ガバナー挨拶
ガバナー　松前　憲典 様

14：30　ガバナー補佐　挨拶
ガバナー補佐　細井　英治

14：35　休憩

【フォーラム】

総合司会　竹内　通裕

14：40　ＩＭ実行委員長　挨拶
ＩＭ実行委員長　石原　昭
並びに講師紹介

14：45　講演
パストガバナー　盛田　和昭 様
（名古屋ＲＣ）
「ポール・ハリスは
友達が欲しかった」

【ディスカッション】

15：35　「ロータリーの友達づくり」

16：05　９クラブ代表発表　各３分

16：35　講評
パストガバナー　盛田　和昭 様
（名古屋ＲＣ）

16：40　閉会の言葉
ホストクラブ直前会長　大嶽　岩雄
点鐘
ガバナー補佐　細井　英治
休憩・会場移動

【懇親会】

17：10　開会の言葉
総合司会　山口　研
田村真喜子

17：15　乾杯
パストガバナー
野村　重彦 様（刈谷ＲＣ）
食事・歓談
アトラクション

18：40　次年度ホストクラブ　挨拶
会長　黒田　昌司 様（碧南ＲＣ）
ガバナー補佐　加藤　良邦 様（碧南ＲＣ）

18：50　ロータリーソング
ソングリーダー　石川　博
「手に手つないで」斉唱

18：55　お礼の言葉
ホストクラブ会長エレクト
大見　宏

19：00　終了

IM 実行委員長挨拶

安城 RC　石原　　昭

今回の IM の開催にあたり、神谷学安城市長並びに講師として盛田和昭パストガバナー、そして各クラブから 500 名の皆様にご出席いただき誠にありがとうございました。

本来 IM は「分区クラブが集い、親睦・研修などの場として行なわれる会」ですが、近年親睦にウエイトが高まっているようです。私は「クラブの活性化、即ち、友情を深めよう」と考え、従来とは少し内容を変えることとしました。そこで西三河分区 9 ロータリーの皆様が 9 つのテーブルに分かれ、ロータリーの基本である 9 つのテーマについて話し合っていただくこととしました。そして代表の方にその結果を発表していただきました。

少し肩苦しく感じましたが、無事に目的を果たすことができ、皆様方に感謝申し上げます。

基調講演

パストガバナー　盛田　和昭

名古屋ロータリークラブの盛田でございます。どうぞよろしくお願い致します。

今回の「友達をつくろう」という議題ですが、これはロータリーのポイントです。ポール・ハリスは、不況下のシカゴで友達４人と集まり、楽しい話をしようとしたわけですが、その時４人全員が違う職業だった事が幸いし、ライバル関係もなく、比較的楽しく喋ることができたわけです。そこで、会員を増やす時も必ず違った職業の人を入れようと決めました。これが、現在のロータリーの基本「1 業 1 人」という原則であり、ロータリーが成功した第 1 のポイントです。そして、その時にもうひとつ決めたことが、平等に仕事していくということ。つまり、4 人が交代で何でもやろうと決めたわけです。ロータリーは必ず 1 年で役職を交代するという素晴らしい組織も、この時に起こったわけです。従って、ポール・ハリスがつくった「1 業 1 人」「1 年ごとに交代する」ということが、ロータリーの基本となりました。ところが、どういうわけか一度ガバナーを務めると、パストガバナーとなり、こうやっていつまでも出てくるわけですね。これは本来の精神からすると「おかしい！」と私は思います。廃止すべきではないでしょうか？

さて、最近日本のロータリーは複雑になってきました。しかし、私は「シンプル イズ ベスト」だと思います。そうでないと、ビジネスファーストにならなくなる。これからのロータリーは、日本に合った「ビジネスファーストで、シンプル イズ ベスト！」ということを掲げていかないと、若い人が入会しないと思います。ロータリーがシンプルになることをお願いしたいです。

最後に、ポール・ハリスは良い友達を持つためにロータリーをつくったということをお忘れないようにしていただきたい。と言うのも、ポール・ハリスは来日時、「なぜロータリーをつくったんですか？」という質問に、「友達が欲しかったから」と言いました。恵まれた人が奉仕するのは当たり前のことで、ロータリーの特権では無いんですね。やっぱりロータリーと言うのは、友達をつくるための親睦会だと思います。「良い友達をつくる」「奉仕は当然のこと」ですのでお間違いのないようにしていただき、ぜひロータリーで良い友達をつくってください。それがポール・ハリスの創立の精神にあたるということを申しあげまして、私の話を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

～IM フォーラム報告書～

RC リーダーシップについて

三河安城 RC　大見　育太

我々のテーブルは「ロータリークラブ リーダーシップについて」というお題でした。クラブリーダーシッププランと言うのが私の頭にあったものですから、一夜漬けで勉強しまして、目的としては「クラブの強化･活性化」と言う事が究極のクラブリーダーシップの目的であろうということは、僕も大体理解していました。ですから、皆さまには「活性化」と言う事について話していただきました。

その中で、

①：効果的なクラブの運営を考えなくてはいけないということ。
②：ちょっと見方を変えてクラブの委員会などの組織を変えなくてはいけないということ。
③：リーダーを育てるということでは、会員は一人ひとりがリーダーであって会長はそれをまとめるだけであるということ。
④：クラブの長期目標を掲げるということ。
⑤：リーダーをしてクラブが活性化すれば退会防止にもなるということ。
⑥：ベテランと若い人のセットでクラブの役割を与えるということ。

などが挙げられました。以上です。

会員増強について

一色ＲＣ　小池　　孝

【刈　谷】　現在の会員数 89 名

・年齢、職業等を考慮しながら、当クラブにふさわしい若い世代の発掘に努めている。増強委員会のみではなかなか進まないが、全会員のアドバイスにより順調に純増３名を目指している。

【安　城】　現在の会員数 56 名

・会員数 70 名を目標に、各理事に１名の推薦をと会長の提案で、そのためのサポート、環境づくりを心掛け、全員体制で徐々に増強中であり、現時点で２名の増強となっている。

【西　尾】　現在の会員数 75 名

・クラブの未来にふさわしい人材を広い視点から、純増２名を目標とし、殊に女性メンバー、未充填職業者の増強に努めているところ。

【碧　南】　現在の会員数 71 名

・クラブ会員全員の協力のもとに、純増２名以上を目標とし、若手候補者及び女性候補者の活力ある優秀な人材の入会に務めているところ。

【一　色】　現在の会員数 32 名

・クラブの中期目標「チャレンジ 50」に向けて、純増５名を目標とし、ロータリアンにふさわしい良き仲間の増強と現会員の維持に、クラブ全会員の協力を得て、現時点で１名の増強であり、後半に向けて期待しているところ。

【高　浜】　現在の会員数 35 名

・クラブで少グループを編成し、主に JCOB の方を重点的に発掘を心掛けているが、ひと休みしたいなどの理由が多く、現時点で１名増・１名減の状況。

【知　立】　現在の会員数 61 名

・クラブにとって大きな効果が得られるように、純増２名を目標とし、メンバー全員から候補者の情報を集め、互いに共有できる工夫を凝らし、同時に候補者と懇親を深めながら増強を目指すなか。現時点で１名増、更に４月に１名増強見込み有りの状況。

【西尾ＫＩＲＡＲＡ】　現在の会員数 59 名

・純増２名を目標として、業種、地域割、各種団体等を委員の担当を定めて、継続的にクラブ情報を紹介してクラブへの勧誘の PR をしていくなかで。現時点で２名増、１名減であり、後半に向けて更に１名の増強に努めているところ。

【三河安城】　現在の会員数 61 名

・優秀な会員を迎えることが、クラブの発展の基礎であると考えており、現時点で４名の増強見込み有りの状況。

【ディスカッションのあらまし】

・市町の合併に伴い、広域テリトリーとなり新たな展開で増強に臨む
・会員増強は、先ずどこに該当候補者がいるかの情報が必要
・毎年一定数を順次安定的な入会が望ましい
・会員増強以外の会員の中には切羽詰まっていない様子も見られる
・ロータリーのステータス・シンボルが薄れてきた感じがする
・一業種一会員は大事だと思う、同業者間の場合気を使う、退会者の本音の理由かも
・会員増強は、自然減を見越して毎年若い世代を均等な人数で補っていくのが望ましい
・会員数が多いと問題が起きやすい。従って増やすことは退会者を増やすことに繋がる
・クラブの会員数としては 60 名前後が望ましいのではないでしょうか
・あまり増強々というのは如何なものか
・和気あいあいとしたクラブです、しかも女性会員が会員の 10%強で入会希望者が多い
・個人的見解では、質に重点を
・会員増強で、トライアルのルールを活用するのも一方法
・クラブの会員数は、テリトリーの人口の 10%程度が望ましいと聞いたことがある
・純増はなかなか難しい。自然減もあるから増強は必要だが、それを補う程度で現状維持に努める
・会員増強に関し、クラブ内の同業者間で支障のないように
・豊富な情報量に基づき、中期的な期間のなかで希望する人材を無理なく入会に
・会員増強は各クラブの事情及び状況或いはクラブ規模に見合った、それぞれの見解で

職業奉仕について

高浜 RC　神谷　義昌

職業奉仕についてということで、皆さまの職業奉仕観についてお話しさせていただきました。その中で、職業奉仕観とはいえ「あくまでロータリーは友達をつくるところ！」とか、「ロータリーと言うのは、簡単な言葉でも難しくしてしまっているところでもある。」という意見がありました。それから、「職業奉仕というのはそもそも当たり前のことで、自分の仕事に一生懸命取り組み、お客様やスタッフ、皆さんのために仕事を通じて社会貢献することは当たり前の事ではないか。」というようなお話しもいただきました。また、職場例会の事についても、お話しくださいました。

さて、今年度、私ども高浜ロータリークラブは、決して職業奉仕に留まらず、会員増強と活性化、そして「友達をつくろう」ということにされており、「会員増強を職業奉仕の観点から考えて取り組んで欲しい」という会長の命のもと取り組んでおります。しかし、新しい会員の入会が進まず、次第に高齢化していく中で、現役の職業奉仕観を議論することが難しくなってきています。そこで、本来であればクラブ内で話をしたい所ではありますが、会長と相談の上、比較的皆さんが興味を持っていただけるように、私的なクラブということで、自由なディスカッションの場を始めました。その中には６名の現役の会員と、ロータリー外の２人を入れて、「職業」について自由に話し合いました。そのほうが、会員外の方は比較的入りやすいということです。そういう方々を増やしながら、結果的に高浜ロータリーに興味を持っていただき、入会したいと思っていただく。そういうディスカッションの輪を広げていく取り組みをさせていただいております。

職業奉仕とは外れた話だったとは思いますが、私どもの取り組みを含めて、発表に代えさせていただきます。ありがとうございました。

RC 親睦活動について

西尾 RC　松田　茂治

ロータリー親睦活動について発表いたします。西尾ロータリークラブの松田です。どうぞ宜しくお願い致します。テーブルの皆さまには、まず活動を執り行う委員会があるかどうか、また活動の内容がどういうものか、また特徴はどうなのかということをお聞きしました。

【碧南】

クリスマス例会・春の例会・インフォーマル例会などを２回行っておりました。親睦委員会もあり、メンバーを盛り上げているということでした。

【一色】

少人数のため、あまり活動を行えていません。しかし、クリスマス例会や花見、旅行、婦人を招いて交流を図っているとのこと。また、釣りとかゴルフなどの部会を行い、例会に来られなかった方々のフォローも行っているそうです。

【高浜】

いろんな例会を行っており、その中でも読書とかお絵かきなどの同好会に力を入れております。また、若手８名ぐらいで親睦委員会と言うものをつくっており、メンバー自身が自分たちの手作りの例会や、ゴルフなどの同好会をたくさん行っております。

【西尾】

３年未満の会員で、10 名程の構成で委員会を運営。年に６回くらいの授業を行っております。そのうちの３回を、家族・ご婦人を招いた例会にしております。西尾の特徴は、入会３年未満の者が親睦委員会に属することで、横の連絡ができ、また同期と言うこともあって、スゴく楽しくロータリーが過ごせていると思います。そのお陰で、私が入って５年になりますが、３年未満の退会者は、私の記憶にはございません。

時間もありませんので割愛させていただきますが、各クラブの皆さんは親睦活動を通していろんな行事を行っており、例会だけではフォローできない方のためにも同好会やいろんな活動を行い、ロータリーが楽しくなるように授業をしております。

出席率向上について

西尾 KIRARA　榊原　利夫

私どものテーマは「出席率向上」と言うことでディスカッションさせていただき、それぞれのクラブの中でどのような施策をもってやられているのかというところで、話を聞かせていただきました。基本的には１年を通して、例えば「年間表彰」や「3～4ヶ月に１回の表彰」などを行いつつ、出席率向上を目指されているということをお聞きしました。

それから、私ども KIRARA ロータリーの具体的な事例をもちながらまとめさせていただきました。KIRARA は基本的に、時間を大切にしております。「食事時間・例会後・例会外でのコミュニケーション」、「仲間・友達づくりの同好会活動」、「出やすい、和やかな雰囲気がする例会づくり」これら３つを柱として活動を展開しております。その中で、ひとつ食事の時間。基本的に例会は 12 時半から始まるんですけど、例会が始まる前に食事を済ませると、そこがひとつコミュニケーションの場となるため、早い人は 11 時 45 分くらいから来られて、例会が始まる前に食事を摂り、ここで大いにコミュニケーションを図ってもらいます。それからもうひとつ、数年前から発足した同好会活動。農業クラブや遊びのクラブ、お酒好きの「日本酒同好会」、昨今ですと「俳句同好会」というものがあり、例会外での活動を大いに行って、それぞれ人間関係（人との触れ合い）を強くしていきます。これが KIRARA の取り組む活動であり、人間関係の疎通を図りながら、出席率向上に努めております。

最後に例会の会場環境ですが、西尾は抹茶が名産なので、抹茶をサービスしたり、花一輪サービスということをしながら、会場の環境を整えつつ、月に１回のおもてなし例会をしております。

上手くまとまっていませんが、こういう遊びのようなものを通じながら出席率に結び付け、人と人とのつながりができ、尚且つ出席率が向上していけばいいと思っております。

社会奉仕について

知立 RC　中川　　敦

先ずもってホストクラブの安城ロータリークラブさんへ、先日事前にいただいたミルキークイーンというコシヒカリより高級なお米と、抹茶をブレンドしたもちもち感のあるカステラを頂きましたことをお礼申し上げます。家族で少しずつ美味しく頂きました。

社会奉仕についてですが、手短に最初に私個人の考えを述べさせて頂き、メンバーの皆さんのご意見を発表して終わりたいと思います。

本日ご来賓としてご臨席賜っております松前ガバナーは、ガバナー挨拶の中で古典、老子の説く「ゆったりとおおらかに生きる」を究極の人生論とされておられ、『老子道徳説』の“いのちの哲学”中で薦められている四つの生き方の内、「貢献の徳をもって生きなさい」という教えに注目されております。それは、最初の 30 年間（第 1 期）は自分探しの時代、次の 30 年間（第 2 期）は自己実現の時代、晩年の 30 年間（第 3 期）は社会貢献の時代として生きるという事だそうです。私個人としましては 53 才になりましたが、未だに自分を探している段階で、知立の夜の巷を夜な夜な彷徨っているという落ち着きのない毎日を過ごしている次第ですので、ゆったりとおおらかに生きながら社会貢献をすることなど死ぬまで無理かもしれませんが、先ずは仕事に専念し、会社を維持・存続させ納税の義務を継続して果たしていくこと、そして今の自分の恵まれた環境に対して常に感謝する気持ちと、自己を省みる謙虚さを忘れないように心掛けたいと思います。感謝の気持ち、人や物への思いやりを忘れることなく、これからも自分の身の丈に合った、人・物・地域・社会への奉仕、そしてロータリアンでないと出来ない社会奉仕活動を続けていけたらと思っております。

それでは、メンバーからお聞きしたお話をご紹介させて頂きます。

「東日本大震災の被災地で継続的な復興支援をしようと、体験を基に試行錯誤で行っている。（継続回数 80 回）」
「生業に専念し、自分自身の豊かさをベースとして地域（地元）への福祉活動を自分のできる範囲で今後も行っていく。」
「障害者団体への協力と社会奉仕活動ができる人材の育成、環境緑化事業への参画。」
「高浜市は『福祉のまち』を掲げており、市とベクトルが合わせやすいので市のニーズに従った福祉事業を展開している。」
「障害者の方々やお年寄りなど弱者への奉仕活動を行っている。」
「少年野球への援助を行っている。」
「食育教育を目的に、保育園へ野菜の鉢植えを 150 鉢寄贈している。」
「環境に配慮した、ゴミの問題、省エネについての活動を行っている。」
などの貴重なお話をいただきました。

四つのテストについて

碧南 RC　長田　豊治

6 名の著名なロータリアンの一人である、ハーバート・テイラーが提唱した四つのテスト（真実かどうか、みんなに公平か、行為と友情を深めるか、みんなのためになるかどうか）というテーマで話し合いました。すると、この文言はどうかという話になり、英文の方は神様が書いたので触れてはいけないが、日本語は誰かが訳したので何とでも訳しようがあるじゃないかと？という意見が挙げられました。例えば、「みんなに公平か」はフェアだから「公正」なんじゃないか、「みんなのためになるかどうか」は「関係者だけでしょ？」とか…。しかし、こういう話を始めるとキリが無いので、決められている事はそのままで、四つのテストについてもう一度みんなで研究をし、コレはこういうことじゃないか？と、常日頃から解釈を深めていこうという話し合いになりました。

この四つのテストは、なかなかしみ込みにくいのですが、地区事務局に確認すると「四つのテストの歌」があるそうでございます。フリはついてないそうですが、歌はある。それから旗もあるので、ぜひ活用すべきであるという意見が出ました。また、「歌になってから、いっぺんに覚えちゃったよ！」というご意見もあるそうなので、ともかくよく吸収し、消化して、自分の言葉として、文言は変えずに、やはり常に家庭や会社で、そして国家に適応したらいいのではないかという意見になりました。そして、何よりも四つのテストをおすすめしたい団体は、「国会」ではないでしょうか？という話でまとまりました。

本音で話し合える人について

安城 RC　青山　竜也

ロータリークラブの良いところは数多くありますが、本テーマである「本音で話し合える人について」は、まさにロータリークラブの本質のひとつを突いたものではないでしょうか。

「経営者は孤独である」これは経営者であれば誰もが感じるところだと思います。逆に言えば、この悩みはなかなか従業員には理解してもらうことが難しいものでしょう。いやそれどころか「社長はいいよなあ、誰にも命令をされることがないので」と思う従業員が多数であり、またそれが普通かと思います。

経営者は自分よりも上の人間が存在しないわけですから、悩みがあっても相談できる相手がいません。この事実はなかなか周囲に理解してもらえないものではないでしょうか。ましてや中小企業であれば、人的資源の限界から孤独感の度合いたるや格段に深いものだと想像できます。

そんな中、経営者の孤独感を共有することができ、社内であったなら役職や立場の違いから本当の意味では相談できなかった悩みであっても、ここロータリークラブの仲間においては、立場の違いを気にすることなく悩みを打ち明け、相談することができる。同じ経営者同士として。ただし、テーブル内での議論では、実際にはロータリーの中でも顧客（利害）関係が存在している場合が多分にあり、なかなかそうもいかない場合もあるという意見もいくつか出た。

ひとつおもしろい話をお聞きすることが出来た。テーブル内でお一人の方の父親が近頃亡くなったそうであるが、亡くなる前に言った一言が「ロータリークラブが人生で一番楽しかった」とのこと。

この一言にロータリークラブの本質が現れているのかもしれません

地元の付き合い（公共性）について

刈谷 RC　鈴木文三郎

『公共性とは』

・広く社会一般に利害・影響を持つ性質。特定の集団に限られることなく、社会全体に開かれていること。(大辞林)
・広く社会一般に利害や正義を有する性質。(広辞苑)

公共性の概念に含まれる要素

(1) ひとつは国家や地方自治体の構成員（国民･住民＝市民）から集めたお金（税金）を担保として、そのお金を活用して雇い入れた労働者（公務員＝公僕）をつかって行う活動。この種の公共性はほとんどの場合、唯一排他的な権威・権力（政府）に裏づけを求める事が多く、複数の公共性を否定する。政府・市役所・郵便事業・公共事業・公教育・警察・消防。公務員特別職（選挙で選出された議員などの公務員）を除く一般公務員は狭義の公僕（パブリックサーバント）であり、政治的行為が制限・禁止されている。

(2) もうひとつは、公務員ではない個々の市民が、地域的ネットワークや目的ネットワーク、宗教的ネットワークなどを母体として、ボランティアや寄付金などを原資としておこなう活動。例：慈善事業・NPO 及び NGO・フリースクール・町内パトロール・消防団・自治会・住民運動。また本来の位置づけとして私的利益を追求するものとされる営利目的組織としての法人や商人が、個々の決意や信念にもとづき不特定多数の他人に貢献すべく行う活動。メセナ・企業の社会的責任。

ロータリークラブにおける公共性とは (2) に該当する。その結果として広く市民及び役所等に認められ、結果として地方公共団体及びその外郭団体等の委員の委嘱を受けることとなっている。

・地元の付き合い

・ロータリークラブと地元との付き合いが発揮される場が職業奉仕事業であり、社会奉仕事業、国際奉仕、新世代奉仕、環境保全事業ではないか。
・また、上記事業を続けているからこそロータリークラブの公共性もより高まっていく。
・事業のうちでも社会奉仕、新世代、環境保全事業は地元との関わり合いが特に強いのではないか。
・周年記念事業もその一つである。
・ここ数年はロータリー財団新地区補助金の利用の仕方が浸透してきたので、事業と地元との関わりがより強くなってきている。

・地元との付き合いのための事業とは

・ロータリークラブの自己満足に終わることなく、地元に根付き、還元できる事業。
・地元及び公共団体からの御用聞きとなり要請された事業でないこと。
・公共団体がすべき事業でないこと。ただし、先見の明を持ち、先駆けてモデル事業として行い、市民及び公共団体を啓もうする事業は進んですべき。
・どこまで行ってもロータリークラブは地元や地方公共団体から補助金を戴いているわけではなく、独立した団体であり、下請けではないし、どんな事業でも言われたからお金を出すのではない。しっかりとした理由がなければならない。

・事業の策定

・事業を探るには、クラブ及びロータリアン個人の公共性を大いに利用するとよいのではないか・
・各ロータリアンもその公共性の高さが故に地元役員とか各種団体役員に就任されている方が多い。それだけ地元における情報も収集しやすいポジションにいらっしゃる。
・ロータリアンの収集した情報と公共性の高さからクラブに直接寄せられた情報をクラブの各奉仕委員会が精査し、よりタイムリーな、より有効な事業を創成すべきではないか。
・この繰り返しがロータリークラブ及びロータリアンの公共性の向上につながり、ひいては会員増強にもつながるのではないか。

〈個人や企業で実践している事例〉

・清掃活動　会社前の道路の清掃。工場近くの側溝の清掃
・地元の小中学生に対する教室「税金とは」
・地元の中学生に対する体験学習「太陽光発電について」
・地元の発明クラブに職業に関連した教材を提供
・地元の小学生に対する総合学習「ホタルの幼虫放流会」
・イチゴ農園に地元の保育園児招待。老健施設入所者招待
・消防団での活動

〈クラブで実践している事例〉

・高浜ＲＣ　交換留学生の継続的な受け入れ
・一色ＲＣ　エコキャップ収集から発展し、エコアートを5箇所の保育園に寄贈
・三河安城ＲＣ　グリーンカーテンを１箇所の養護施設に寄贈。他の施設からうちは無いのかと要望。
・西尾ＲＣ　２校の校庭の芝生化を新地区補助金100万円と行政の370万円で実施。今後は、行政の予算で、他の学校も校庭の芝生化をする道筋をつけた。

以上、短時間ではありましたが、有意義なディスカッションの内容を報告いたします。

RC リーダーシップについて

西尾 KIRARA RC　鈴木　正司

まず誰からともなくこのテーマでは抽象的で何を話したらよいのか分からないということになり、運営側の期待に反して勝手にテーマは変更してしまい、とりとめのない話し合いになったことをお断りしておきます。

あるクラブでは、近年の会員増強の奨励に乗って若手を増強しているが、ターゲットにし易いためか JC の OB をどんどん入れているその結果として、JC の塊が出来てしまい大きくなってきているという弊害が生まれている。こういう状況を真剣に考えなければならないという意見がでていました。但し、JC に関してはどこのクラブもターゲットにはしているのでしょうが、取り立てて JC の塊ができているというクラブが多いとは思われませんでした。

ただ近年の国際ロータリーや地区からの強力な会員増強推進に関しては疑問を呈するクラブが多く、あまり無理な増強は弊害こそ生まれてもクラブにいい影響がないと思われるので慎重にすべきであるとの意見が多数見受けられました。

また増強に関しては、経済人ばかりでなく地道に新しい職業の方々を掘り起こす努力をしているクラブがあったり、文化、芸術関係のメンバーを増やすべきではないかというご意見も出されていました。

次に、最近は次の指導者養成のためか、地区が音頭をとっての研修会がやたら多く本当にこんなことが必要なのか？それ故全部のクラブが同じような方向を向いてしまい独自性が失われる恐れはないのか？などというという疑問も呈されていた。

その他の研修も含めて親睦＝友情などを中心にしてのクラブ運営でもいいじゃないか？もっと大らかでいいじゃないか？というご意見もでていました。

これらに関連して例会への出席に対する対応の温度差が其々のクラブにはあるようで、ホームクラブ出席につき相当厳しい出席を求められるクラブもあれば、一方では緩やかなクラブもあり、基調講演者の話の中にもあったようにビジネスファーストそれ故メーキャップ制度があるという観点からすればどちらが正解かというのは難しいところであろう。

以上が我々のテーブルで話し合われた内容の概略です。

会員増強について

碧南ＲＣ　石橋　嘉彦

◎退会原因

・ロータリーの魅力の低下
・経済的情勢の変化
・高齢化による
・新設クラブへの移動

◎入会を固辞する原因

・ＪＣ、商売上など、しがらみがあって堅苦しい
・他クラブ、他団体との綱引きで立場がない
・経済的、時間的余裕がない

◎会員の確保及び増強

・クラブの魅力をアピールする
・退会者を無くす様努める
・退会に際しては替わりを紹介してもらう
・ＪＣの卒業メンバーを募る
・年代別にリストアップし、同世代の入会を促す
・女性会員や若い人の入会を促す
・企業スケールより人物本位で入会を促す

職業奉仕について

一色 RC　山下　保彦

FOUR-WAY TEST は、日本語の訳語では「四つのテスト」とされていますので、一般的には「四つのテスト」であって、「言行はこれに照らしてから」とされていますが、
真意は、一寸、違うのではないか、と思います。

「四通のテスト」ならば、英語では FOUR　WAY　TEST と複数形になる筈ですが、
現実には Four と WAY の間にはハイフォンがはいっていて全体で一つの言葉になっており、しかも WAY と単数形なってしまうので、決して「四通のテスト」ではあり得ません。この FOUR-WAY　という用語は、ランダムハウスの英和大辞典を引きましても、
名詞ではなくて、「四通に通じている」という意味の形容詞しか出て来ません。

FOUR-WAY TEST というのは、「日常的な職業的行為において、何等かの行動を起こすに当たって、いろいろな方法、手段があって迷うような時に、判断をまとめるためのテスト」なのだと思います。時々「四つ辻のテスト」とゆう用語を耳にしますが、これは真意としては正しいとは思うのですが、何分にも名詞的な用法なので、文法的に如何なものかと思います。何れにしましても、「言語はこれに照らしてから」という有名な注釈は、四六時中とゆうニュアンスがありますので、残念ながら、一寸、間違っているのではないかと思います。

各項目の訳文にも多少の疑義を感じます。第一に「真実かどうか」の TRUTH ですが、TRUTH の第 1 義「真実・心理」よりも、第 2 義の「事実と一致していること、嘘のないこと」の方が良いのではないでしょうか。その方が誰にでも理解し易いと思いますし、

有名なダレル・トンプソン氏の論文でも、ここは「事実に基づいているか」となっております。

次の「みんなに公平か」の FAIR については、その第 1 義は確かに「公平な、公正な」ですが、これは実業の世界では少し酷なのではありませんか。商業英語で for a fair price
と言えば「適切な価格で」と言う換用語なので、この場合は「みんなに適正な手段 (価格) であろうか」の方がよさそうに思うのですが。

次の「好意と友情を深めるか」ですが、Good　Will、好意や友情は Build(造り上げる) ものでしょうか。実は Good　Will と言う言葉は、商業英語では専ら「信用」を意味していますので、この頃の真意は「将来に向かって自社の信用を培い、相手方との間により一層の友好関係を育む事ができる方策だろうか」であり、簡潔には「信用を培い親交を深めるだろうか」の方よさそうに思います。
最後の「みんなのためになるかどうか」は、Beneficial　to は「利益をもたらす」という意味なので、「みんなに利益をもたらす方策だろうか」の方が端的のように思います。

【総合評価】

以上の結論として、「四つのテスト」というものは、専ら、社長室や従業員が集まる部屋などの内部を対象として掲示すべきものであって、店頭や街角など、多くの人々の目に付く所に、外部広報的に掲示する様なものではないと思う！

RC 親睦活動について

三河安城 RC　大見　和志

各クラブでそれぞれ工夫して親睦活動を行っています。他クラブの活動が参考になりました。

●各クラブ共通で行っていること
・会員誕生日祝　・会員入会記念日祝
・結婚記念日祝　・配偶者誕生日祝
・親睦旅行　・会員家族親睦例会
・出張例会（演劇等の鑑賞・花見等）

●各クラブ個性的な活動
・ゴルフ部　・写真部
・読書部　・マージャン部
・野球部　・掬び会
・グルメ部　・飲み会

●その他
・例会時の席次をくじ引きで決める等の工夫（出来るだけ、色々なメンバーとコミュニケーションが図れるようにする）
・例会だけで親睦を図るのは難しいので、宴会をこまめに企画したり、共通の趣味があるメンバーでの集まりを企画している。

出席率向上について

西尾 RC　山﨑　克弥

◎安城　出席率は 80 ～ 90%を維持している。
毎週の出席は難あり　→　メイキャップの活用が活発
プログラムの再検討？
例会ごとにくじ引きにより席決め　→　会員交流の活性
欠席が続く会員　→　入会推薦者の役割（フォロー）

◎知立　2 年間の出席統計を取った。
月の第 1 週目の出席は高いが以降低下している。
84%以上の目標に対して 85%を超している。
（ホームクラブ出席のみ）修正は 100%近い

◎碧南　例会時に会場に早く来る人は出席率が良い
例会前の 1 時間が大切ではないか？
(会員同士のコミュニケーションの場)

◎刈谷　比較的出席率は良い。
会員同士声を掛け合っている。(一人で座っている人がいない)
新入会員に対してはホームクラブの出席を勧める。

◎一色　会員数が少ないためそれぞれが重要なポジションにあり、意識が高い。
出席に対しては 100%に近い。少数精鋭

◎西尾 KIRARA　創設当初の頃は 100%近い出席率だったが最近は低下している。
例会の在り方を考え移動例会を行ったが出席率は上がらなかった。

◎三河安城　食事が余る。年間 20 万円余りのロス　→　出欠の連絡を確実にしたい。
「出席率になぜこだわるのかが疑問」という意見もあった。

◎西尾　会員交流が活発になれば出席率も上がる。
→　同好会活動の活発化
→　夜間例会の回数を増やした
新入会員（親睦委員会）同志の交流機会を大切にしている。
例会内容の多様化（各世代の嗜好に合わせた例会）を考える。

社会奉仕について

高浜 RC　鈴木　康博

各クラブにおける社会奉仕活動について活動内容や所感をいただいた。

◎西尾　地域に密着した活動を行っている。
名鉄西尾線の存続運動や地区のクリーン作戦などである。

◎知立　かきつばた賞 ” と銘打って奉仕活動をされた方や個人的ボランティア
活動をされている人等、表彰する。行政の隙間を埋める活動である。
RC は平等であるため会長経験者も含め一般会員とした扱いが必要

◎一色　佐久島の海岸清掃や交通安全の旗ふり活動をしている。

◎西尾キララ　キララ賞として下積みの人に日の目を浴びてもらえるような賞を実施 “ ロータリ奨学制度 ” など地域が必要なことを知っている RC だからできる、RC でしかできない活動を通して RC の存在感を PR する。

◎三河安城　2005 年から障害者施設でつくる EM 菌の普及をおこない、河川の浄化特に油が淵の浄化活動を行っている。
2009 年より緑のカーテンとしてゴーヤやトマトの栽培を行い、省エネ活動、さらに食育を考える活動としている。

◎刈谷　資金援助や補助金などとして、本物の音楽を聞かせるなど、各地域の特性を生かせるよう活動を行っている。
海外にロータリの森をつくる活動も行っている。

◎安城　行政に働きかけを行い市民の喜びをみつけることにより、活動の巾を広げていく。

◎高浜　地域と一緒になって市民の生活の質を高めるため、地域イベントなどに積極的な協力をしている。
交換留学生の参加も地域における、RC の PR にもなっている。

【考察】
社会奉仕活動を積極的に行うことにより地域に RC の存在感を PR することにつながってきている。しかしその内容が今後社会のニーズとずれないよう注意しながら、活動することが大事であろう。

四つのテストについて

安城 RC　冨岡　里美

日常生活や会社運営においても常識なことですから、反省材料とし自分に問いかけるようにしている。
当たり前の事ほど、考えれば考えるほど解釈の違いが出るように思われるし、宗教の違いにより取り方が変わると思われ　るが、素直にとるようにしている

『真実かどうか』
・何に対しての真実か？
・悪いことをしようと思っている人はロータリアンにはいない。経営的には数字になる。

『みんなに公平か』
・これは大変難しいことです。
・公平と平等の違いはあるのかな？
・会社運営において、社員を公平に見ることは出来ない。
・学校教育においても、学力の違いで差をつけているように思われる。
・相手に対し同じ気持ちで接しなさいと言いたいのかな？

『好意と友情を深めるか』
・これに対しては相手のことを、思って接すれば友情は深まるだろう。

『みんなのためになるかどうか』
・いつもみんなの事を思っていることは難しいですが、何かする時にみんなの事を思ってすることは出来る

本音で話し合える人について

刈谷 RC　水越　彌生

テーマが「本音で話し合える人について」ということでしたので大変率直に意見交換ができました。
結論としては「ロータリーのメンバーは本音で話し合える人達ばかりである」という意見が圧倒的でした。
私たちのテーブルはロータリーに入会して数年以内のメンバーの方もあり　慣れるのに２～３年かかったという方もありました。友達作りや信頼関係を得るためには　進取の気性で　自分で進んでやらないと何も変わらない。役をやって信頼してもらいそれを積み重ねていく。本気で誠実に話し対応する。などロータリーアンの心得として本音で話をすることが大切であることもわかりました。
例会のほかに同好会を通してゴルフ部だけでなく将棋部・囲碁部・登山部・マラソン部・コーラス部などいろいろな部を作り楽しいことをやろうというクラブもありました。今回のように他クラブと一緒に討論会や懇親会をすることで「本音で語れる友人作り」の機会を得ることが出来たのではないかと思っています。

地元の付き合い (公共性) について

知立 RC　天野　光宏

地元の付き合いについて報告いたします。
どのクラブもクラブとしての地元の付き合い (公共性) は、会長、幹事が中心で付き合いによってその活動の委員長、また事業によるお付き合いが中心になっています。
個人レベルで見れば住んでいる地域とのかかわりであったり、会社として、またその役職としての地元の付き合いがあったりします。
町が小さければいくつかの付き合いが重なったり、多くなります。また、こうしたお付き合いの場がいろいろな情報の場であったり、コミュニケーションの場として大切な役割を果たしています。
いずれにしてもロータリアンとして地元の付き合いを大切にし、その地域で活躍することが社会貢献にもつながるのではないかという意見が出されました。

RC リーダーシップについて

安城 RC　奥田　法行

・RC は大人の集まりなので、リーダーとしての方向性が重要視される。
・ロータリアンとしての自覚が大切なように思う。
・最も良く奉仕するものは、最も多く報いられるを、忘れずに！
（テーブル参加人数が４名でした。）

会員増強について

安城 RC　磯貝　廣治

【意見】
・交代会員が多い、会員の高齢化による退会があるが二代目の入会にまで行かない
・誰でも良いわけでなく地元の企業リストアップが必要
・増強よりも維持が大変
・例会を楽しくして辞めさせない
・増強しても退会者が多く実の増強にならない。
・会員相互交流の場を多くしている
・クラブ間の情報交換して会員増強に繋げる
・高齢化と出席免除者
・趣味の会を開催している

【まとめ】
各クラブも会員増強に努力しているが退会者が多く増強になっていない現状です。
魅力のあるクラブになる事が会員増強に必要、例会を様々な卓話者に依頼、部会・同好会を作り会員の交流を図り楽しいクラブにし退会者を無くする努力が必要。

職業奉仕について

安城 RC　小林　逸朗

職業社会奉仕とは、簡単、明確には言い表すことは出来ないため各メンバーがロータリーについて想っていることを述べていただきました。

その主な意見は次のようなものでした

・職業奉仕の理念は、毎回例会で歌うロータリーソングと四つのテストの中にあると思う。
・ロータリーに入って　他業種の人と付き合うことが出来てとてもよかった。
・お客様へのサービスが職業奉仕になると思う。
・ロータリーの活動はシンプルイズベストを旨とし、あまり数多くの事業をすべきではないと思う。
・会員を増やすため同一業種５人までとなっているが、発展活性化のため、もっと減らしたほうがよいのではないかと思う。
・ロータリーにも定年制を設けても良いのではないかと思う。
・委員会によってはかなり時間をとられてしまい大変であるが、いい勉強にもなる。

その他色々な意見が出まして大いに盛り上がったところで時間となり終了しました。

RC 親睦活動について

安城 RC　横山真喜男

【内容】

各クラブ共、親睦活動委員会としては家族会（観劇、クリスマス、花見など）や懇親会（新春、夜間など）を委員会事業として実施している。しかしながら、毎年のお決まり的な形骸化した親睦活動となっているのではないか。メンバーに委員会が出席のお願いをして動員数を上げるとか、企画内容を毎年四苦八苦して考えている。そんなことからか、近頃はクラブ内に同好会、部会と言われるようなものが多くなった。ゴルフ部会は以前から各クラブあったが近頃は、合唱、写真、絵画、釣り、ハイキング、グルメなどの同好会を置くクラブが増えてきている。しかし、本来のロータリーの親睦とは、声掛けではないだろうか、顔を見ないメンバーに声を掛ける。先輩が新人に声を掛ける。これが親睦活動の第一歩では。

出席率向上について

安城 RC　内藤　教恵

「出席率向上について」意見交換した結果

①取り組み
②卓話の充実
③コミュニケーションの場づくり
④表彰
⑤例会数

以上５つの見直しが必要であることが挙げられました。

それぞれ各クラブで実践している事例を報告します。

①出席率向上の取り組みをしているクラブでは努力目標を「皆出席」とした仕組みや意識統一ができている。また事務局から電話連絡などの方法で例会案内を丁寧に行い、会員の出席を促している。
②卓話の充実では卓話の題材に「面白い話」を増やす。また「会員の紹介」をするなど友達をつくるきっかけにする。
③コミニュケーションの場づくりでは、例会場ロビーなどに会員が気楽にお茶を飲める「友愛の広場」を設置している。また例会の食事が美味しいことで会話が弾む。
④表彰については「皆出席者」の表彰を年度毎、または３ヶ月毎に行う
⑤例会数の見直しについては、例会の回数を減らすなどの見直しをしてはどうか。

このような大変に参考になるご意見を頂戴しました。

社会奉仕について

安城 RC　深津　正則

No24 テーブルは、西尾 RC の味岡嘉男様、刈谷 RC の宮廻和正様、碧南 RC の池田弘孝弘孝様、知立 RC の武田昭俊様、一色 RC の坂田吉郎様、三河安城 RC の斎藤光正様、西尾 RC の三浦康彦様と私の８名で社会奉仕について討論しました。

８名の職業は全員異なり、会長経験者の方から、入会して２年の方まで多様な顔ぶれでした。各々自己紹介を兼ねて、「社会奉仕についてどのように考えているか」を発表して頂きました。

共通していたことは、皆様まず、自分の職業を通して、社会に奉仕する理念を持ち、各々の職業の特色を活かし、仕事に精励しているということでした。また、各 RC のこれまでの活動を報告して頂き、社会奉仕について意見を交わして頂きました。

最後にまとめとして社会奉仕は範囲が広範にわたり、何をするかは各クラブの特色を活かし、それぞれの地域に根ざした活動が必要であるということと、会員が各職業を通して社会に奉仕していくことが必要であるということです。

四つのテストについて

安城 RC　神谷　明文

1：　4つのテストについて、従来から RC で議論されており、各メンバーは大なり小なりそれに触れたことがある。まず、この議論についての先人の成果を学んだ。

問題点としては、翻訳が間違っている、或いは翻訳によって本来の趣旨が伝えられていないのではないか、が主たるものである。

この点について、龍ヶ崎中央ＲＣの亀尾清司会員は、4つのテストの発案者であるハーバード・テーラーの横浜に於ける講演及び大阪 RC の塚本義隆会員がテーラーに直接質問された結果を前提として、卓越した考察文を表している。

2：　それによれば、まず FOUR － WAY とは、単に「4つ」の意味ではなく、四辻のことであり、考えがいくえにも重なって迷ったときに、考査＝テストするものと考える。「言行はこれに照らしてから」：原文には「WE THINK」が入っており、何事もよく考えてから行動すべきとの意味が含まれている。

①「真実かどうか」テーラーは聖書に繰り返し語られている嘘を言ってはいけないとの言葉から影響を受けている、すなわり、真実とは神の御心にかなっているかとの反省であるが、宗教を持たない人には、自分自身の良心に問うて真実かということである。

②「みんなに公平か」:FAIR を公平と訳しているが、テーラーは公明正大、或いは正々堂々の意味に使っている。また、「みんな」とは利害関係のある関係者の意味である。

③「好意と友情を深めるか」：これは言い換えると、自分が行おうとしていることを、自分は、相手の立場にたって考えているか、相手にとって一番良い方法を勧めているか、とふり返ってみることである。

④「みんなのためになるかどうか」:原文には CONCERNED の語があり、直訳的にみると「利害関係のある皆にとって有益か」となる。これはテーラーの職業観であり、何らかの事業を行う上での倫理である。

3：　各 RC では、4つのテストをどのように生かしているか？

・電力関係の仕事をしているが、仕事の社会的責任を問われている現在において、4つのテストは行動指針となっている。
・他地域出身の者として、RC を友人を作る場としている。4つのテストは友人と付き合う際の目安となる。
・職業奉仕を考える際に、4つのテストによって考えや行動をチェックする。
・RC の年間事業が定まっており、RC の行事が形骸化している感もある。事業を行うかどうか決定する際にも4つのテストを用いるべきか。
・最近、4つのテストのような、RC の精神的な話題や議論が少なくなっている感がある。以前はもっと行ったような気がする。

4：　4つのテストを題材に、先人の議論の成果を学習し、さらに現在の RC のあり方にまで及ぶ活発で中身のある議論がなされ、有意義な時間であった。

本音で話し合える人について

安城 RC　新田　高広

私たちの班は7人で「本音で付き合える人について」のディスカッションを行いました。いろいろな意見が出てかなりの盛り上がりがありました。ディスカッションの内容を以下に、箇条書きで紹介させていただきます。

・一生付き合う事ができないと本音で話せないのでは？
・共通点や同じ趣味があれば本音で話すことができるようになる。
・ロータリーの中では地元ではない転勤するロータリアンではなかなか本音で話すまでにはならない。
・自分を飾らなく自分から本音で話すようにする。
・以前は先輩に可愛がってもらったが、長い年月ロータリーにいると自分が上のほうになり年齢の違いがあるため、なかなか打ち解けなく本音で話し合いが出来なくなってきた。
・若い人たちは横の繋がりがあり寂しさを感じてきている。
・ロータリーは企業のトップの人とも話す機会ができ、勉強をさせてもらえる場所で、また友情をつくる場だと考えている。できる限り相手には失礼がないように、本音で話すようにしている。
・自分の好きなことを共有する機会(飲みに行くとか、ゴルフに行くとか)が何度かないと本音で話すまでにはならないと思います。
・ロータリーの中では最初から本音で話すつもりはない
・ロータリーは対等と言われますが入会したばかりだと先輩方とはなかなか本音では話ができない。

以上、いろいろな意見が出てきました。

「本音」で話し合えるとは勝手に言いたい放題ではなく正直に相手に真意が伝わるように自分自身を表現することですから、節度を持ちつつ積極的に皆でその雰囲気、環境、機会を持つ働きかけが必要だと思います。心がけるとしたら、出来る限り自分から本音で話し、本音で話さないと相手も心を開いて本音で話さないと思います。会社だと上司、部下との関係ではなかなか本音で話す事が出来ないが、ロータリーだと人生の先輩や後輩の関係がありますが、利害関係が少なく本音で話しやすいと思いました。

地元の付き合い（公共性）について

安城 RC　清水　正幸

安城 RC は安美展の入賞者への褒賞の協力、安城七夕祭りの竹飾りコンクールへの褒賞の協力、安城緑道駅伝のレプリカの贈呈等、頑張る市民への表彰に協力をさせていただいています。

また RCC では安城少年野球サークルへの優勝旗、野球道具等の援助をしながら青少年の健全育成に力を注いでいます。その他、530 運動への活動資金の援助、油ケ淵清掃活動の協力、安城スカウト協議会・社会福祉協議会・国際交流協会・安城体育協会にも資金援助をさせていただいております。

まだ入会して間もないためよく解らないですが、地域あっての会社だと思いますので地域に貢献できるよう頑張っていきたいと思います。

530 運動では、掃除協力をしながら活動をしている。かきつばた大賞の創設、一般市民に協力をしている派出所署員、知立の公園の掃除をしてくれている市民、小学生の通学に旗を振って交通安全に協力をしてくれる市民に表彰をさせていただいています。

慣れることが第一、空き缶ゴミが平気で拾えるように、今日はいいことをしたなと思えるよう声掛けをしながら、毎日散歩をしながらゴミ拾いをしている。商工会ゴミ拾い隊にも参加をしているし地域に広げていきたい。

卓話に地元の団体を呼び、話をしていただいています。EM 菌を配布して半場川の浄化に努めています。会社の前の清掃をしたり周辺の清掃をしたりします。消防団への支援、体験学習への協力、ほたるの飼育、エコキャップを集めたり、グリーンカーテンの設置、学校の校庭のグリーン化など地域、企業、行政に貢献できるよう頑張っています。

RC リーダーシップについて

安城 RC　山口　佳久

・グループディスカッションのテーマとして的を得てない。不適切では？
・会長・幹事の「RC リーダーシップの取り方なのか」会員個人なのかどちらか？
・自分の親と同い年ぐらいの人と一緒で、リーダーシップなど考えたこともない。
・ロータリークラブとしての方向性やベクトル的な目標は必要がないと思う。
・ロータリークラブには本音と建前があったが、世代交代して本音で言える環境になりつつある。
・「グルメ」「写真同好会」「ゴルフ」「俳句同好会」などの「親睦会」「同好会」があり活発に活動しているようです。
・会長・幹事が相談して決めたことを会員が動いていく団体であり、リーダーシップなど必要ないのでは？
・リーダーシップよりキーワードとしては、「人間性」「誠実に」が必要である。
【まとめ】
　通常組織における「トップダウン」「ボトムアップ」などというリーダーシップのあり方はロータリークラブで必要でないと思う。

会員増強について

安城 RC　石川　義典

◎西尾 KIRARA　今年は 2 名入会しました。西尾 RC と競合する。JC を卒業した人は、西尾 RC に入会する人が多い。
◎刈谷 RC　5 月に入会したばかりで、まだ何もよくわからないが父もロータリーメンバーだったので、これからは友達を多く作りたい。
◎三河安城 RC　当初は 40 人くらいでスタートしたが、現在は 60 名を超えるメンバーになっている。毎年減少しないように同じ業種の方を 2-3 人入会して頂くように努力している。
◎知立 RC　MAX65 名ぐらいだったが、今は 61 名で JC からのラインを作って入会して頂くようにしている。今年は女性会員に入会してもらいたい。
◎碧南 RC　現在 71 名のメンバーで活動中。今年は純増 1 名であるが、量より質が大事だと思う。無理やり増やすのでは、意味がないと思う。
◎安城 RC　JC 卒業メンバーは　三河安城 RC に入会する傾向がある。現在 56 名で、70 名を目標に今年は頑張っている。

職業奉仕について

安城 RC　市川　　護

　初めに、自己紹介と最近の職業奉仕の近況について情報をもらいました。
　大きく考え、職業人として自分の仕事を好きになり、最大の能力を出し切れるよう、自己の時間を活用し奉仕につなげていく。このような感じで、このテーブルの皆さんは意志の疎通が出来たように思われました。
　貴重な情報や、意見を頂きロータリーの見識が少し変わりました。
　同テーブルの皆さんお世話になりました。ありがとうございました。

RC 親睦活動について

安城 RC　川合　昭道

　ロータリー活動の原点として「職業奉仕」と「親睦」の二つの大きな樹のような思考と行動様式の親睦について、31 番テーブルでは議論が重ねられました。
　何処のクラブもその意を深く理解し親睦活動が活性化していることを感じました。
　安城クラブも本年度より同好会として写真クラブ・ランチを楽しむ会・俳句会・ワインで語る会などが発足しました。こうした会員の集いの中に深い親睦が育まれていくだろうと思います。
　他クラブも同じような同好会が沢山紹介されました。その一部をあげると、ハイキング・釣り・麻雀・バンド・旅行・サイクリング・月の誕生日会等が報告されました。また、夜間例会が月一回は必ずあり、酒宴を伴い、二次会の手配も欠かさないクラブもあり、酒を少々入れ胸襟を開いて付き合う中身の濃い親睦をはかる活動も報告されました。
　各クラブで基本的な活動として、新年会・クリスマス家族会・観劇会・最終例会などが行われ親睦活動の重要性が深く議論されました。

出席率向上について

安城 RC　加藤　正人

・碧南RCでは、100％出席が3週続くとタオルがもらえる。
・一風変わったニックネームを付け合い、例会に行くのを楽しんでいる。
・例会出席は、義務であり権利でもあるが、楽しくなければ意味がない。
・特に新入会員に対して、例会出席について厳しく指導している。
・例会は正装でなければだめなのか？毎週例会が足かせになってはないか？
・ビジターに対し、サプライズ的な何らかのおもてなしをするのも面白い。
この様に活発な意見がたくさん出ました。

　どのクラブも出席率向上に対して苦慮している現状があります。出席率を一時的に向上させるやり方は色々あるとは思いますが、それを継続させるのは大変な事だと思います。最終的には本人の意識の問題であり、自らが例会での楽しみを見つけ、それを楽しめれば出席率も向上してくるのではないかと思います。

社会奉仕について

安城 RC　兼松　信吾

今回のテーブルメンバーによる発表では、やはり「東日本大震災」に関するものが多く、現地へ赴いての復興ボランティアの他、みかん等食料の送付、募金活動・復旧復興プロジェクトへの資金支援など各々のクラブでの活動が報告されました。

講話にもあったように、豊かな余裕のある人が社会奉仕を行うのは至極当然のことではありますが、優れたボランティア活動に対する顕彰や補助、植樹事業・緑化活動への参加など、各々のクラブとして地域社会に根ざした活動を行っていくことも大変重要なことです。

今後とも、ロータリアンひとりひとりが「超我の奉仕」を実証する機会として社会奉仕を実践し、社会奉仕を含めたロータリー活動の中で「友達」をつくり、増やしていければと考えます。

四つのテストについて

安城 RC　神谷　　研

“四つのテスト”は多くのクラブで唱和してされていますが、皆さんはどのように意識していますか、という問いかけに対し様々な意見が出ました。

・この言葉が生まれた時代背景と今の日本は状況が違いすぎ原文に捕らわれるのはナンセンス。
・自分の行動をチェックする尺度にしている。
・自己反省の機会にしている。　　等々…

それらの意見を踏まえ、我々が四つのテストを常に正として行動することは無理だから行動規範としたい、と纏まりました。

本音で話し合える人について

安城 RC　成田　孝則

私が本音で話し合える人
①家族　②お客様　③友人　④社員　⑤ RC 会員
①家族は生活を同じにしているので全て本音で話す。仕事の話題から恋愛の話まで。自分の良い所悪い所をはっきり言い合える。
②不動産業のため自分自身が誠実でなければ信用して頂けない必ず本音でお話をします（間違った事は言わない）進む方向性をジャッジしなければならないので。お客様からは感謝されます。
③仕事柄（休日が水曜日）友人は少ないですが、オフの時酒を飲みながら本音で話しをして、疲れを発散します。
④社員は出来る限り褒めちぎって仕事をこなして貰います。必要と思う時には本音で仕事の方向性を語ります。
⑤私はまだ 1 年生のため、語って良い人と良くない人の区別が出来ません。もう少しクラブに慣れたら本音で話し合える人が出来ると思います。
※ RC は友達づくりと友人の集まりだと思います。できる限り自分から話しかける様心がけています。
【本音を語れる友人をつくるため】
1：例会に必ず出席する事。
2：所属委員会を活発化させる（会場ですが月 1 回委員会）
3：各種会合出席（親睦例会・家族例会・同好会）
積極的に出席して本音を語れる人を作りたいと思います。
①～⑤まで、すべてが自分にとっての財産です。

【本音で話し合う人は、自分の考えを整理するのに必要】
建前ばかりが語られる社会の中「腹を割って」本音で話し合える人を探し出すのは難しい。本音で話し合えると何かが変わる。心の底から笑い合えるような人。本音で話し合える人、楽しさを共有できる人と積極的に付き合う事。

【まとめ】
「本音とは」
・建前の気持ちを除いて、本心から出た言葉。
・自分に正直な気持ちから出た言葉。
・事実に誠実な言葉

【「本音で話し合う」と言う事が出来るのは】
⇒　限定的な範囲で大まかな価値観を共有しており、相手を理解している事が大前提。
ロータリークラブで、勉強させて頂きながら、そんな友達を作りたいと思います。

地元の付き合い（公共性）について

安城 RC　戸谷　　央

【クラブとして】
◎西尾RC　　星野和幸君
・　市内小学校校庭芝生化の手伝い
・校庭整備をする機械等の援助
・二の沢川　清掃及びアジサイ植樹
◎西尾KIRARARC　　高原宏君
・二の沢川清掃
・道の駅　植樹
・碧南RC　新海孝司君
・小学校に植樹

【企業として】
・地元の町内会等と会社近隣を清掃、また、通学児童の交通安全運動の手伝い。

【個人として】
◎安城RC　　小野内宣行君
・安城競技場体育館通り池浦町に、街路灯を立てる目的のため、組合事業所を設立するお手伝いをしました。

【まとめ】
・ロータリーの知名度が低すぎ、地元の付き合いが円滑に行なわれない。
・ロータリーの友、広報誌を公共施設に置いてもらいPR度を増す啓蒙活動が必要と感じました。そこから始めないとロータリーとして地元の付き合い(公共性)は、今後の地域社会では、活動する機会が極めて少なくなると思いました。

RC のリーダーシップについて

安城 RC　杉山　淳一

「リーダーシップについて」をテーマに、各 RC の皆さんとディスカッションさせていただきました。
最初に、参加された方々の「リーダーシップについて」どういうお考えがあるのか伺いました。目標達成させようとする意欲であったり、愛情を持ったリーダーシップであったり、皆さんの考えておられることは少しずつニアンスが異なりましたが、すべてにおいて共通することは、人間関係（信頼関係）の重要性に集約されると感じました。
そして、RC 活動においても同じことが言えると思います。各々が個人で活動するのではなく、組織として活性化させるためにも、コミュニケーションを取る機会を増やし、委員会中心に活動を進めていくことが大切であると思います。

●第三部　懇親会

Intercity Meeting～友達を作ろう～

RI 2760地区2011-2012年度 西三河分区
Intercity Meeting～友達を作ろう～

思いをつなげよう・・

2011-2012年度　第2760地区

西三河分区　IM実行委員会　組織図

理事会

ホストクラブ
会長　沓名　俊裕
幹事　永谷　文人
直前会長　大嶽　岩雄

ガバナー補佐
細井　英治

分区幹事
寺田　孝司

分区副幹事兼会計
奥田　法行

会計監査
丸山　光夫
深津　正則
神谷　明文

事務局
中嶋　美和
本間　育子

実行日　2012年2月19日(日)

ＩＭ実行委員長
石原　昭
(副) 大見　宏

総務部会 部会長　小野内宣行	懇親部会 部会長　石川　博	式典・フォーラム部会 部会長　竹内　通裕
冨岡　里美　深津　正則	石川　義典　内藤　教恵	山口　研　神谷　研
加賀　昭成　稲垣　淳	横山真喜男　福田　雅美	成田　孝則　恒川　憲一
勝見　乙平　杉本　汎平	杉山　淳一　兼松　信吾	新田　高広　鳥居　博行
市川　護　神谷　明文	磯貝　廣治　寺部　曉	小野田真代　浦田　士郎
加藤　正人　山口　佳久	青山　竜也　小林　逸朗	戸谷　央　原田慶三郎
鈴木　福美　成瀬　介宣	外山　勝美　川合　昭道	藤井　英樹　加藤　弘
清水　正幸　岡田　良三		近藤　裕保　都築　雅人
		松本　隆利　野村　繁雄
		杉浦　實　横田秋三朗

来賓並びに特別出席者

神谷　学（来賓）……安城市長
盛田和昭（名古屋ＲＣ）……パストガバナー
松前憲典（一宮中央ＲＣ）…ガバナー
田中正規（西尾ＲＣ）……ガバナーノミニー
野村重彦（刈谷ＲＣ）……パストガバナー
長谷川正己（一宮中央ＲＣ）…地区幹事
西岡則男（一宮中央ＲＣ）…地区副幹事
加藤良邦（碧南ＲＣ）……次年度ガバナー補佐
亀山裕一（碧南ＲＣ）……次年度分区幹事
黒田昌司（碧南ＲＣ）……次年度ホストクラブ会長

青少年交換学生

［受入］
高浜ＲＣ　ヴィル ヴァルテリ カールソン（フィンランド）

参加者数

クラブ名	会長名	登録人数
刈谷	杉浦世志朗	54
西尾	稲垣良次	74
碧南	石川春久	71
一色	篠田義隆	32
高浜	笠松栄治	31
知立	神谷太一	62
西尾 KIRARA	清　克行	59
三河安城	田村　脩	61
安城	沓名俊裕	56
合計		500

2011-2012年度　第2760地区
西三河分 IM 収支決算書

収入の部

項目	金額	明細
登録料	30,000	ガバナー事務所
	540,000	刈谷ＲＣ
	560,000	安城ＲＣ
	740,000	西尾ＲＣ
	710,000	碧南ＲＣ
	320,000	一色ＲＣ
	310,000	高浜ＲＣ
	620,000	知立ＲＣ
	590,000	西尾KIRARA ＲＣ
	610,000	三河安城ＲＣ
地区助成金	200,000	
祝儀	200,000	
合計	5,430,000	

支出の部

項目	金額	明細
総務部会	929,372	プログラム・報告書・記念品・会議費・事務費
式典・フォーラム部会	625,096	講師諸雑費・会場設備費
懇親部会	3,875,532	飲食費・アトラクション費・会場費
合計	5,430,000	